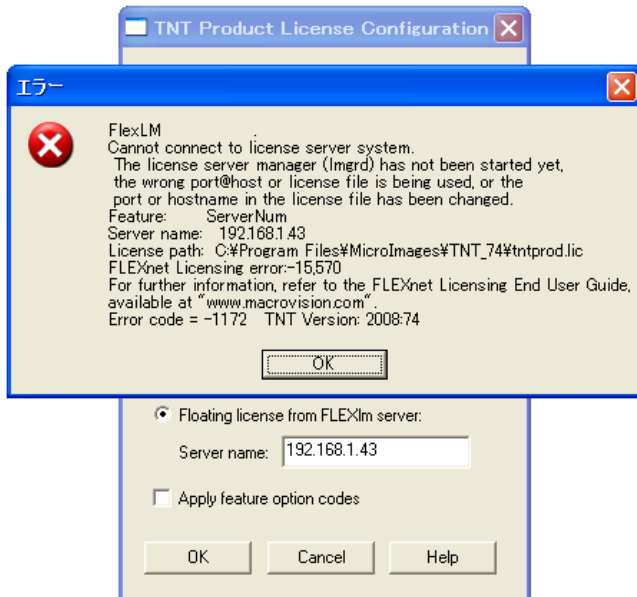


Windows Vista マシンをライセンスサーバとして使う際の注意点

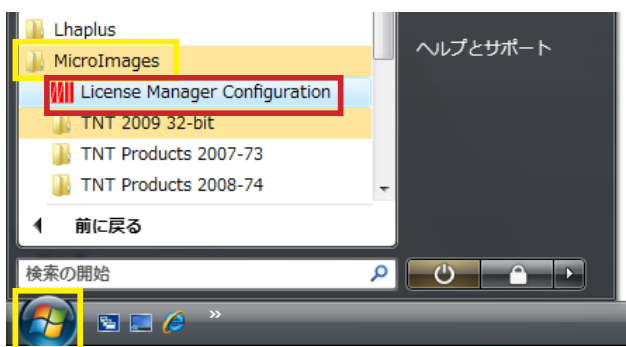
Windows Vista マシンをライセンスサーバとして使う場合、クライアント側の<License Configuration>ウィンドウで次のようなエラーメッセージが現れることがあります。



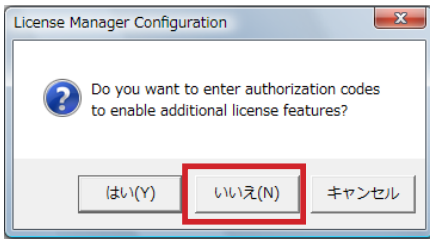
マシン起動時にライセンスサーバを自動的に起動するように設定していると、ライセンスサーバがうまく働かない事があるようです。マイクロイメージ社によると、この現象は、マイクロソフト社が提供しているアップグレーダやパッチが原因である可能性があるとのこと。

この現象は、ライセンスサーバを手動で起動するように設定を変更すると現れなくなります。

▼画面左下のスタートメニューから、すべてのプログラム> MicroImages > License Manager Configuration を選択します。

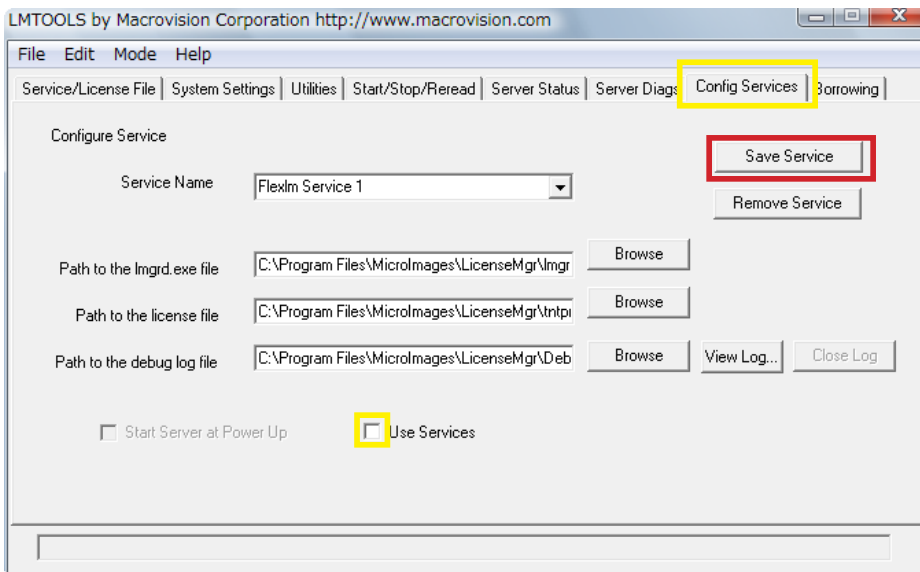


▼ < License Manager Configuration > ウィンドウが現れます。[いいえ (N)] を押して次へ進みます。

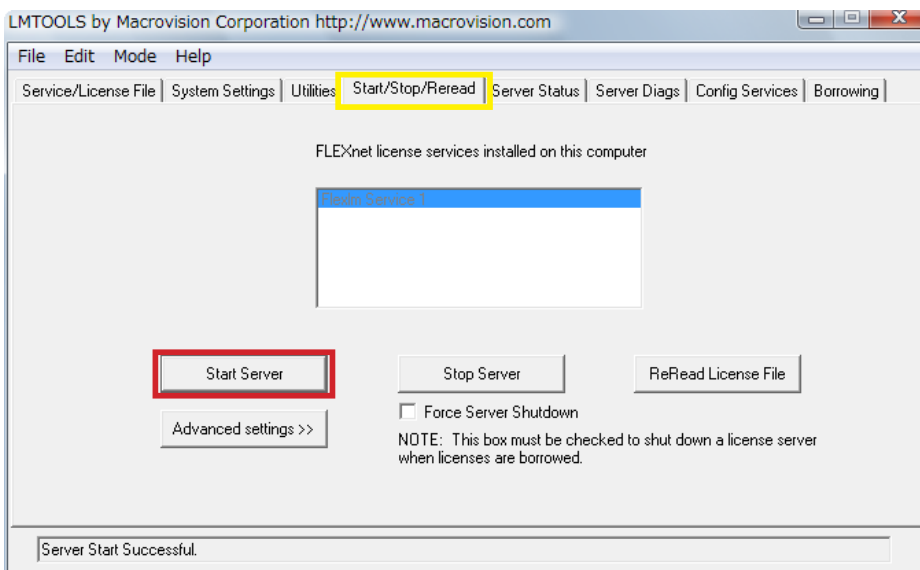


▼ < LMTOOLS by Macrovision Corporation <http://www.macrovision.com> > ウィンドウが現れます。[Config Services] タブパネルへ移動し、“Use Services” のチェックをはずします。ここのチェックをはずすと、“Start Server at Power Up” のチェックもはずれます。

これらのチェックがはずれていることを確認したら [Save Service] を押し、変更した設定を保存します。



▼ [Start/Stop/Reread] タブパネルへ移動し、[Start Server] を押します。



ライセンスサーバを手動で起動するように変更しましたので、マシンを起動するたびにライセンスサーバを起動する必要があります。ライセンスサーバを起動するには、LMTOOLS を立ち上げ、[Start/Stop/Reread] タブパネルで [Start Server] ボタンを押します。